

平成27年7月30日

旭川市長 西川 将人 様

旭川市総合計画審議会

会長

長谷部 一 郎

## 第8次旭川市総合計画基本構想（案）について（答申）

平成27年5月12日付け旭総計第17号で本審議会に諮問された第8次旭川市総合計画基本構想（案）について、旭川市を取り巻く社会経済情勢を踏まえ将来を展望した上で、慎重に審議した結果、基本構想（案）については、おおむね妥当と認めます。

ただし、基本構想の立案に当たっては、審議においてまとめた意見の趣旨を十分に生かされますよう要望し、別紙の意見を付して答申します。

なお、その他の審議過程における意見についても配慮し、基本計画の策定に当たることを望みます。



## 意 見

### 1 基本構想全体について

- 第8次総合計画は、市民と行政が「目指す都市像」を実現していくための羅針盤となるものであるため、「まちづくりの展望」、「まちづくりの基本的な考え方」及び「目指す都市像」について、重複した表現などを整理し、市民にとって分かりやすい計画とする必要がある。

### 2 「目指す都市像」について

- 本市を代表する観光資源である旭山動物園は、すでに国内外の多くの人々の注目を浴びており、このような地域資源を市民と市が磨き上げることにより、12年後には「世界にきらめく」状態となることを表していることから、「目指す都市像」の表現については良いと考える。
- 「世界にきらめく」ためには、アジア諸国をはじめ、様々な国との人的・物的な交流が活発に行われ、多くの外国人観光客が訪れるなど、賑わいを生み出し、地域が活性化していくための取組が求められる。

### 3 「都市像の実現のために」について

#### (1) 基本目標 1

- 少子化対策として、誰もが希望を持ち、安心して妊娠、出産、子育てができる環境づくりは非常に重要であり、これらに対する支援を一層充実すべきである。
- 超高齢社会の中で、今後、医療ニーズがますます高まっていくことが考えられる一方、救急医療の現状を踏まえ、医療の質を確保しつつ、救急医療の受入体制の水準を維持していく視点が必要である。

#### (2) 基本目標 2

- 人口減少、少子高齢社会においては、あらゆる世代が協力してまちづくりに取り組むことが重要であることから、シニア世代の活躍の場を広げることや世代間交流などにより、生涯学習の推進や未来を担う子どもたちの健全育成につなげていく必要がある。

(3) 基本目標 3

- 産業は、市民所得や税収など、市民や市の収入の根幹となるものであることから、本市の特長や個性などのプラス面を強調し、旭川のブランド化や産業の競争力の強化、新規産業の創出に取り組むなど、経済の活性化を積極的に推進していく必要がある。

こうしたことにより、本市の雇用環境の改善や経済基盤の安定が図られ、少子化対策や地域活性化にもつながっていくものとする。

- 人口減少対策として、地震や台風などの自然災害が少なく、自然や田園と都市が調和した本市の魅力や優位性を大都市の高齢者や若者に積極的にアピールするなど、移住を促進していくための取組が求められる。

(4) 基本目標 4

- 多くの市民が大地震などの大規模な災害を経験したことがないまちであるからこそ、市民の防災意識を高め、万が一の災害発生に備え、市民と市が一体となって防災対策を強化していく考え方が重要である。

(5) 基本目標 5

- 人口減少が進む中、市役所組織の簡素化を進めていく考えは重要であるが、単に職員を削減するのではなく、市民ニーズや社会情勢によって求められる組織の強化を図るなど、効率的な組織づくりを進めていく必要がある。

#### 4 「都市構造の方向性」について

- 将来にわたり市民の暮らしを支え続ける都市を構築するためには、集約型都市構造を目指し、都市のコンパクト化を計画的に進めていくことが重要であり、今回、新たに基本構想に「都市構造の方向性」を設けたことは、意義のあることと考える。

また、少子高齢化が進む中、とりわけ郊外地域の市民生活に配慮する考え方も重要である。